

意見書

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

奥山千鶴子

野田総理が、10 月 14 日(金)横浜市港北区の地域子育て支援拠点どろっぷに視察にこられ、利用者と懇談いたしました。利用者懇談で見えてきた「すべての子どもへの良質な生育環境を保障し、子どもを大切にする社会」の実現にむけて。



利用者からの意見

○海外を含めて転勤族。子どもが生まれてからもすでに5 回引っ越し。カナダでは、徒歩圏内に「ドロップイン」（気軽な子育て支援の拠点）が 3 カ所もあって助かった。無料の食事の提供もあった。日本にも、同じような「どろっぷ」があって良かった。（量的拡充）

○帰国したとき、幼稚園の年少（3 歳児）クラスに空きがなくて編入できなかった。子ども二人を連れて、「どろっぷ」を利用。（量的拡充）

○海外では、誰でもが気軽に子どもに声をかけてくれて、子育てしていることが誇らしかった。日本では、電車で移動しても誰も声をかけてくれない。迷惑そう。（社会全体で子育てを応援できる社会、子ども・子育てが尊重される社会）

○引っ越してきて 2 年。朝から夕方まで、毎日のように利用している。最初は知り合いもなく、毎日子どもと向き合っていると、どうにかなりそうだった。スタッフやボランティアさんに関わってもらって徐々に心配がなくなってきた。（予防型支援の拡充、孤立させない取組み）

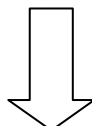


○「どろっぷ」で、パパ同士の交流をはかっている。夜 9 時、10 時の電車の混み具合を見ると、子育てに関われていない父親は多いだろうと思う。（ワークライフバランス）

○「どろっぷ」には、妻が妊娠中に両親学級から参加。今は、先輩パパとして講座に出ることも。平日は仕事でかなり遅くなるが、どろっぷは土曜日に利用。自分が子どもを連れてきて、妻を休ませたい。（母子保健との連続的支援、家族を応援するサービス）



早急に



実現を

利用者(子どもと子育て家庭)本位を基本とし、すべての子ども・子育て家庭に必要な良質なサービスを提供

地域主権を前提とした住民ニーズに応えるサービスの実現

